

2016年2月21日に、神戸大学大学院・人間発達環境学研究科のアクティブエイジング研究センター設立のシンポジウムを、神戸大学百年記念館で開催しました。当日は、30社を超える企業、また、神戸市役所など、約200名の方に参加いただき、大変、充実したシンポジウムとなりました。主催者を代表して感謝申し上げます。

冒頭での神戸大学理事・副学長(研究・産学連携担当)の小川真人氏のご挨拶では、センターの目標が神戸大学の戦略である文理融合研究、研究成果の社会への実装、実戦型グローバル人材育成などと関連し、神戸大学としても、アクティブエイジング研究センターの活動に強い期待を寄せている、との心強いお言葉をいただきました。基調講演ではWHO神戸センター所長のAlex Ross氏、ソウル大学応用老年学・退職研究センター所長のGyounghae Han先生、東京大学高齢社会総合研究機構教授の秋山弘子先生に、センターの指針となる多くの情報とともに、本センターへの期待も同時にいただきました。また、アクティブエイジングに研究ハブ拠点に向けてのセッションでは、コーディネータ・岡田修一氏のもと、本センター 3名の先生(長ヶ原誠、増本康平、片桐恵子)と神戸市住宅都市局計画部公共交通課課長の小島洋一氏、株式会社ワコール人間科学研究所研究員の丹松由美子氏に現状の取組を発表いただき、このセンターの今後について意見交換を行うことができました。フロアからやAlex Ross氏からも質問・助言があり、このセンターへの期待の大きさが伺われました。昼休憩とシンポジウムの最後には、ポスターセッションを実施し、ここでは多岐に渡る分野の発表を得て、多くの意見交換を行うことができたように思います。

超高齢社会の課題は複雑で且つ重層化しています。そのため、この課題解決には複眼的な視点は重要であるのは当然ですが、それを活かせる場所も重要になるのではと思われます。その意味で、本センターがこの課題解決の接着剤、ハブになり、ここで多くの情報の収集・発信が起こり、プロジェクトが立ち上がり、これらにより超高齢社会の課題解決に貢献していきたいと思っています。その意味で、この報告書がそのスタートになることを願っています。

2016年3月吉日

アクティブエイジング研究センターセンター長
近藤徳彦

PROGRAM

2016 **2/21** (SUN)

会場：神戸大学百年記念会館

10:30 開会アナウンス

10:35 設立記念シンポジウムに寄せて

神戸大学理事・副学長：小川 真人(研究・産学連携担当)

10:45 開会挨拶 神戸大学大学院 人間発達環境学研究科長：岡田 章宏

(神戸大学大学院 人間発達環境学研究科附属発達支援インスティテュート長)

10:55 アクティブエイジング研究センター構想 (センター長)：近藤 徳彦

(神戸大学大学院 人間発達環境学研究科教授)

11:15 基調講演

「アクティブエイジングの歴史と進化」

Alex Ross 氏

WHO健康開発総合研究センター(神戸センター)所長

12:15 昼食

13:00 アクティブエイジング研究スクエア・ポスターセッションI

13:30 特別講演1

「アクティブエイジング社会のために大学は何ができるのか？」

Gyounghae Han 氏

ソウル大学 応用老年学・退職研究センター所長

14:30 特別講演2

「長寿社会の課題と可能性～大学の役割」

秋山弘子 氏

東京大学高齢社会総合研究機構特任教授

15:30 「アクティブエイジング研究ハブ拠点に向けて」

17:00 アクティブエイジング研究スクエア・ポスターセッションII

18:00 レセプション(瀧川記念会館)